

チャリティー企画写真展「The Secret 2020」

2020年2月12日(水)～2月29日(土)

展示期間中作品を販売いたします。売上の一部を中央共同募金会へ寄付いたします。

フレームをご希望の場合、別途14,000円(税別)となります。(16X20インチ・UVアクリル)

*の作品は複数点ご購入いただくことが可能です。(印のない作品は展示作品のみの販売となります)

	タイトル/コメント	イメージサイズ	価格(税別)	作品
1	Café	280 × 419mm	岡本尚也	
2	小沢昭一	369 × 249mm	赤城耕一	
3	七色のダイヤモンドダスト 結晶の細かいダイヤモンドダストは太陽との角度を選ぶと虹色に輝く、その様は魅了され動けない。	396 × 263mm	高橋真澄	
4	Manhattan	403 × 304mm	佐藤仁重	
5	悠々閑々	264 × 395mm	柳瀬桐人	

過ぎゆく日

- | | | | | |
|----|---|-------------|-------|---|
| 6 | Parisのセーヌ川にかかる橋は毎日いろいろな人が行き交います。そんな人たちを何世紀もの間、ずっと見守ってきたと思われる古き建築物。今日という日もまたそのうちの一部として過ぎゆき、Parisの街の歴史的一幕となるのでしょうか。 | 260 × 390mm | 埴 真一 |  |
| 7 | Un jour a paris (或る日のパリ) | 252 × 379mm | 山崎エリナ |  |
| 8 | 黒いキャミソールの女
仄かに漂う肌の匂いが、
眠りの中に入ろうとする君の熱い感情を落ち着かせる。

静かに、そのままに・・・
時が流れていけばいい。 | 204 × 164mm | 大坂寛 |  |
| 9 | d-2019 Silver Gelatin print
奇岩の多い北海道積丹半島で、これはエビス岩と大黒岩と言われる2つ並んだ奇岩のひとつ。恵比寿様か、大黒様かがわかりませんが、いずれにしてもすばらしい自然の造形です。 | 287 × 226mm | 岡崎正人 |  |
| 10 | 風と砂の残像
苛酷な自然で知られるアメリカ国立公園「死の谷」(Death Valley)には砂と風が創り、変化する風景がある。シャープで豊かな階調を残していた。 | 255 × 385mm | 大高 明 |  |

11	<p>ピアノシモ</p> <p>春に光が芽吹くこの花もまた、 光によりその神秘を映し出すことができるだろうか</p>	270 × 350mm	武藤裕也	
12	<p>The Tree "Out of Africa"</p>	220 × 177mm	菅原一剛	
13	<p>a hui hou</p>	307 × 383mm	渡辺達生	
14	<p>Winterlicht</p> <p>ワルシャワのバス停にて</p>	290 × 195mm	中藤毅彦	
15	<p>聖なる丘</p> <p>イタリア、ドロミーティ。 ラーチ(唐松)の森に抱かれた草原に建つ小さな礼拝堂。</p>	284 × 380mm	吉村和敏	

16 にじむ光の追憶

305 × 204mm

ハービー・山口

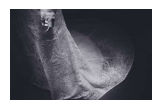


Quiet Time

17 終わりと始まりの間
次に起こる展開を心して静かに待ちわびる

187 × 285mm

こばやしかをる



#992 「Attraction du Noctilux "Still Life"」 2014

18 開放F値がF/1.0という1970年代後期のライカのノクチルックス
50mmというレンズのF値開放で撮っている作品シリーズの一枚
です。
この「#992」は、自身の作品をコレクターの元へ送るための梱包
をしている時に、物である筈の作品が入った差し箱とその上に
無意識に置いた白手袋の佇まいに哀愁を感じて、その場の空
気感を閉じ込めるように表現した作品です。

201 × 301mm

永嶋勝美

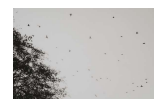


Songs

19 歌には、楽しい時をより楽しく、苦しい時や悲しい時を前向きに
してくれる力があります。作家によるゼラチンシルバープリント。

118 × 179mm

安達ロベルト



花 2020

20 久しぶりにハーフサイズのカメラで撮った。
フィルムカメラの感触や、モノクロプリントの味を思い出した。
そして一番大切なこと、つまり見ること、撮ることを楽しむ(写真
の原点)をどこかに忘れていたことに気がついた。

264 × 193mm

藤田一咲

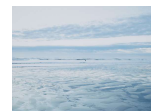


silent sea

- 21 まだ暗いうちに海へと車を走らせる。今日は海風に当たると決めていたその日。そんな日は天気予報も気にせずに、日の出前の到着で海へと向かう。三脚にカメラを据えてその横に立つ。レリーズを握り暫し佇むと、その時すぐ横をサーファーが走り去り海へと向かう。青白い海が独特の光を放ち始め風景の中の人と自分の何かがシンクロしたその時静かにシャッターを落とした。程なくして真っ青な空が風景を支配して多くのサーファーがワラワラとやって来た。私はカメラを徐ろにたため海を後にした。

274 × 365mm

伊藤之一



秋の光

- 22 四季の中で一番美しい光は澄んだ空気と遮光線が作る秋の光だと思ふ。そんな光を感じると色の鮮やかさより光の美しさを表現したくなる。

273 × 409mm

佐々木啓太

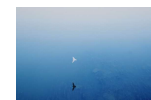


“わたしと遊ぶ、地の空にて I play with me in the ground sky”

- 23 ミケランジェロの丘から宿に戻る際に通ったアルノ川で、新鮮な朝の光を浴びて川面を飛ぶ白い鳥がいた。写した像にはもう一羽の黒い鳥が現れ、青い空を並んで飛んでいた。芸術の街がくれた手土産のようで嬉しかった。

180 × 270mm

高倉大輔

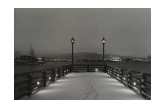


昨日の夢

- 24 私のふるさとの港です。子供の頃の港は、活気に溢れていた。その頃からすると寂しくなったが、落ち着きのある風景も、又いい雰囲気醸し出している。

198 × 297mm

松田敏美

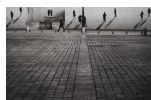


Shadows passing by

- 25 今までの雑踏が嘘のように
足音だけがかすかに届く
パリの午後
光は影を残して通り過ぎていった

173 × 259mm

吉田 正




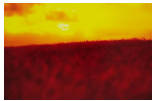
afterglow

- 26 スコットランドのセント・アンドリュースにある聖サルバトール礼拝堂です

225 × 225mm

岡嶋和幸



	流転				
27	「RINGCUBE」って最高のネイミング。その12年に感謝と愛をこめて、流転。心からありがとう、RINGCUBE!!	320 × 320mm	塩澤一洋		
28	red, black ,infinity 驚異の世界へようこそ	280 × 280mm	有地 訓		
29	spiral staircase 高みにのぼる人は皆、螺旋階段を使う。物事が進んでいくとき、それは直線的に進むのではない。進化していく過程は美しき螺旋階段。	179 × 270mm	テラウチマサト		
30	Rose, 2020	225 × 225mm	鈴木光雄		
31	Horizon 薄い雲を通した夕陽が麦の穂をシルエットに浮かび上がらせ、ビール麦の地平線を自然の造形として輝き放ってくれました。夕陽は明日への期待を誘います。まさに邂逅、一期一会。麦秋の頃に出会った、セピア色の風景でした。	151 × 227mm	藤城一郎		
32	祝苑の花 赤色のエネルギーをそのままに・・・	220 × 295mm	浜崎さわか		